

株主の皆さまには、平素より
格別のご高配を賜り、
厚く御礼申しあげます。
ここに、第82期
株主通信 2019年夏号を
お届けいたします。



2018年度の当社グループの業績は、売上高8,595億円(前期比0.1%減)、営業利益766億円(同11.2%減)となりました。年度始めは好調に推移しましたが、米中貿易摩擦の拡大などによる事業環境の悪化を受け、通年の売上高は前期比横ばいとなりました。年間配当は2017年度より8円増の1株あたり84円、期末配当は42円としました。

2019年度も、この厳しい事業環境が継続すると想定しています。これを織り込み、業績目標は、売上高8,300億円、営業利益650億円としました。一方、この逆風を将来の競争優位性を築くための好機と捉え、研究開発など中長期の成長に必要な投資を増やし、あえて減益の計画としました。

また、2019年4月16日に、車載事業を担うオムロンオートモーティブエレクトロニクス(株)の株式等譲渡契約を日本電産(株)と締結しました。今、自動車産業は自動運転や環境対応車の普及などの大変革期にあります。このたびの株式譲渡は、この大変革期の中で、当社車載事業の制御技術の強みと日本電産(株)のモーター技術の強みを掛け合わせることで新しい価値を創出し、自動車産業のさらなる発展に貢献するためのものです。

今後オムロンは、最注力している制御機器事業とヘルスケア事業を中心に成長を実現してまいります。生産現場での人手不足や人々の健康ニーズの高まりなど、オムロンが解決すべき社会的課題はますます広がりを見せています。両事業への戦略投資をさらに積極的に実行し、変化の激しい時代の中でも自走的に成長できる構造を全社で作り上げてまいります。これからも持続的な企業価値の向上に邁進してまいりますので、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

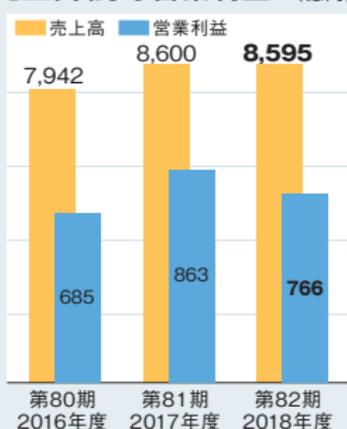
2019年6月
代表取締役社長 CEO

山田義仁

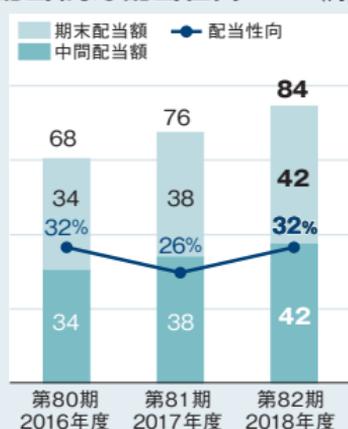
第82期(2018年度) 決算ハイライト(連結)

	実績	前期比
売上高	8,595 億円	△ 0.1 %
営業利益	766 億円	△ 11.2 %
売上高営業利益率	8.9 %	△ 1.1 P
税引前当期純利益	754 億円	△ 9.5 %
当社株主に帰属する 当期純利益	543 億円	△ 14.0 %
基本的1株当たり 当社株主に帰属する 当期純利益	260.78 円	△ 36.07 円

売上高および営業利益 (億円)



配当および配当性向 (円)



◎第82期期末配当金につきましては、1株につき42円といたしました。

第83期(2019年度) 通期の見通し(連結)

		前期比
売上高	8,300 億円	△ 3.4 %
営業利益	650 億円	△ 15.2 %
売上高営業利益率	7.8 %	△ 1.1 P
税引前当期純利益	600 億円	△ 20.5 %
当社株主に帰属する 当期純利益	425 億円	△ 21.8 %
基本的1株当たり 当社株主に帰属する 当期純利益	206.95 円	△ 53.83 円

(注) 上記は、2019年4月24日決算発表時点で入手可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しです。

部門別情報

制御機器事業



世界の主要な製造業の幅広いお客様に対し、センシング技術とコントロール技術を活用したオートメーション機器およびサービスで、ものづくりを支援しています。

売上高
構成比

46%

電子部品事業



汎用アプリ(民生)機器、車載機器、環境/エネルギー機器、産業機器に内蔵する制御コンポーネントやモバイル機器に内蔵するコンポーネントなど幅広い分野で、グローバルに電子部品を提供しています。

売上高
構成比

12%

車載事業



安全で、人と環境にやさしいクルマを目指してカーエレクトロニクスの新たな領域にチャレンジし、世界の自動車メーカー、電装品メーカーに対し、車載用電装品に特化した設計、生産、販売活動を行っています。

売上高
構成比

15%

社会システム事業



安心・安全で快適な社会の実現に向け、センシング&コントロール技術およびソフトウェア、メンテナンスのトータルサービスでソリューションを構築し、お客様とともにより良い社会づくりに貢献しています。

売上高
構成比

9%

ヘルスケア事業



家庭で測る身近なものから医療機器まで、生活習慣病の予防・改善、疾病管理に役立つ数多くの商品やサービスをグローバルに提供し、人々の健康とすこやかな生活への貢献をしています。

売上高
構成比

13%

本社直轄事業(その他事業)、他

環境事業・バックライト事業、他



事業の育成・強化や新規事業の探索・育成を目的とした事業を、本社直轄で担当しています。

売上高
構成比

5%

安心・安全・快適な「未来の駅」の実現に向けて

オムロンの社会システム事業では、鉄道業界において自動改札機、券売機などの駅務機器システムや遠隔監視サービス、安全システムなどを提供しています。安心・安全・快適な「未来の駅」の実現に向けた取り組みをご紹介します。

◆ 安心・安全の向上への取り組み

多くの人が利用する駅で、日々ホームへの転落事故が起きています。事故防止対策のひとつにホームドアの設置がありますが、ホーム幅および強度などの制約や費用の関係で、全ての駅に設置できる訳ではありません。オムロンはセンシング技術で、車両とホームの間隙にヒトやモノが挟まった場合には、警報機にて運転士や駅

係員に異常を知らせ、運行遅延など、被害の拡大を防ぐシステムを開発しました。西武新宿線新井薬師前駅では実証実験を終え、2019年7月より運用が開始される予定です。このシステムはホームドアに比べ設置が容易で費用も安価なため、今後多くの駅で導入され、安心・安全が広がっていくことを期待しています。

◆ 「未来の駅」への取り組み

近年、訪日外国人の増加などにより駅利用者の多様なニーズへの対応が求められています。一方で、鉄道業界においても人手不足は深刻な課題であり、オムロンは駅業務の省力化を進めながら、さまざまなニーズに応えることができる「未来の駅」の実現を目指しています。

2019年3月、利用客からの問い合わせに対応するAI(人工知能)搭載の「駅案内ロボット」を開発し、京王井の頭線下北沢駅にて試験運用を開始しました。このロボットは、発車時刻や乗換案内、駅周辺の情報などさまざまな問い合わせに音声と画面での文字表示で回答します。試験を行った駅の利用客から

「雑踏の中でもしっかり声を聞き取ってくれる」「駅から劇場への行き方も案内してくれて便利」などの声がありました。将来は、ロボットがコンシェルジュのように、足の不



駅案内ロボット
サイズ(幅178×奥行237×高さ301mm)

自由な人に階段を使わないルートを提示して先導してくれたり、行先を告げると出発ホームまで連れて行ってくださるかもしれません。



オムロンの社会システム事業は、1967年に自動改札機を世の中に送り出して以降、50余年の歴史で培った駅業務のオートメーション技術、遠隔監視技術、運営ノウハウがあります。そこに最先端のAIやロボット技術を掛け合

わせ、人手不足という社会的課題を解決するとともに、利用客の多様なニーズを充足する安心・安全・快適な「未来の駅」の実現に取り組んでいきます。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月	
配当金受領株主 確定日	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日
株主名簿管理人 および特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社	
同事務取扱場所 (郵送先) (電話照会先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号	0120-232-711 オペレーター対応 (9:00～17:00 土・日・祝日を除く)
上場証券取引所	東証第一部	
証券コード	6645	

◆◆◆◆◆ 株式に関するお問い合わせ ◆◆◆◆◆

- 届出住所・姓名などのご変更
- 配当金の受領方法・振込先のご変更
- 単元未満株式の買取・買増請求

▼
口座を開設されている証券会社へ
お問い合わせください。

- 特別口座に関するご照会
- 郵送物の発送と返戻に関するご照会
- 支払期間経過後の配当金に関するご照会
- その他株式事務に関する一般的なご照会

▼
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部まで
お問い合わせください。
電話照会先は上記をご参照ください。

◆◆◆◆◆

100株以上保有の株主の皆さまへ

2019年度株主優待申込期限のお知らせ

申込期限:2019年6月28日(金)消印有効

まだお申込みをされていない株主さまは、お早めに
申込書をご投函ください。

株主優待に関するお問い合わせ先:

0120-868-343 (9:00～17:00 土・日・祝日等を除く)

三菱UFJ信託銀行 株主さま優待サポートセンター(オムロン専用窓口)